

(独)国立長寿医療研究センターにおける 在宅医療推進に向けた取組み

- I 研究
- II 人材育成
- III 市町村への働きかけ
- IV シンポジウムの開催
- ※ 地元(愛知県等)での事業

平成26年3月20日

(独)国立長寿医療研究センター

I 研究

①被災地の再生を考慮した在宅医療の構築に関する研究(研究代表者:大島伸一)

在宅医療拠点の研修、指導により拠点の質が大幅に向上

老年学センター
在宅医療開発研究部

拠点訪問実地指導96箇所(91%)
電話相談によるアドバイス 2000件

在宅医療(三浦班)
病院在宅連携医療部

在宅医療連携拠点質の評価と介入
(大島班)

青森県の在宅医療推進・
阻害要因の検討(蘆野)

現地疫学調査&臨床実践の記録

- ◆ 金石 (寺田)
- ◆ 陸前高田 (近藤、大塚)
- ◆ 気仙沼 (沖永)
- ◆ 南三陸 (大川)
- ◆ 石巻 (近藤、武藤、粟田)
- ◆ 仙台 (大川)

宮城県の自宅看取りの阻害要因
調査(川島)

在宅医療そのものの
課題について
の客観的評価

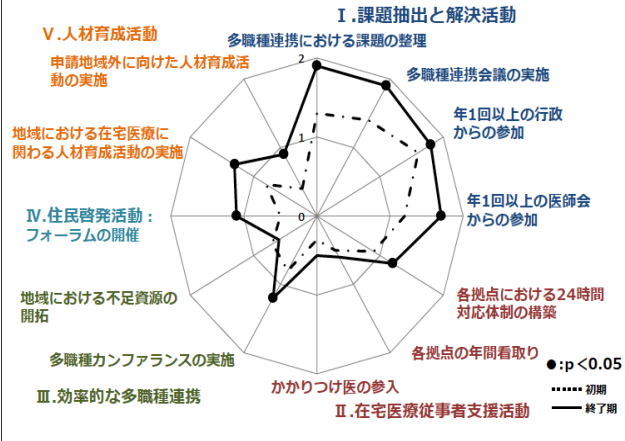
在宅医療のQOLの開発

(長寿)
指導

多職種連携
テキスト作成
班(鳥羽班)

教育研修
事業(長寿)

全体



② 在宅拠点の質の向上のための介入に資する、活動性の客観的評価に関する研究(研究代表者:大島伸一)

• 拠点活動状況の調査・助言

1. H24 年度在宅医療連携拠点事業

- 進捗管理・助言:拠点訪問・ヒアリング
- 拠点の評価指標の策定と質の評価

2. H25年度在宅医療推進事業

- 市町村ハンドブックの作成
- 医療計画を踏まえた評価指標策定
- 実施主体調査(H26年1月予定)



在宅医療・介護連携のための市町村ハンドブック

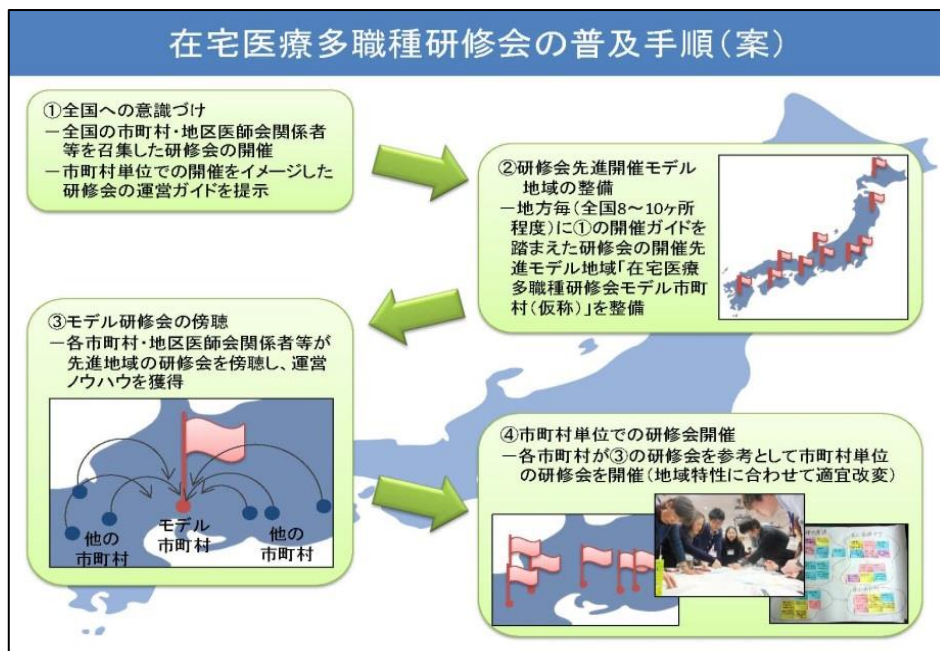
平成25年12月

独立行政法人
国立長寿医療研究センター

● 拠点医師活動モデルの検討

1) 効果的・汎用的研修会の検討

「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会」の開発



2) 24時間往診体制負担軽減策の検討

検討会タイムテーブル(素案)		
時間割	内容	
土曜午後(14~18時)	20分	開会・冒頭趣旨説明 ー本検討会の設置趣旨を説明する。 ー地域単位の在宅医療研修会が備えるべき理念(医師会・自治体・在宅義援診療所等が三位一体で在宅医療研修会の運営に関与し、三者それぞれの役割を果たしながら当該地域における在宅医療推進の基盤を形成する)や枠組みについて概説する。
	20分	地域単位の研修会開催例の紹介 ー既存例の1つとして、国立長寿医療研究センターの後援により千葉県柏市等で開催実績のある「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会」を概説する20分程度のダイジェスト映像または講義を視聴(三位一体の開催構造/在宅医療の必要性を知る講義/多職種グループワーク/実習/地域資源を見る視点(マッピング等)/地域課題の整理・解決策検討といった単元を包含)
	20分	自己紹介タイム ー各地域(あるいは周辺地域)の活動の状況を相互に共有する(例えば、今に至るまでの苦勞、経験、工夫について)。
	80分*	アイスブレイクの方法論 ーアイスブレイクの一例として、地域資源のマッピングを特定地域の多職種(柏から招集)に実演してもらい、フィッシュボウル(金魚鉢)形式で見学してもらう。その他、各地域で取り組んでいる内容も含めたアイスブレイクの手法について検討する。
		休憩
	80分*	在宅医療推進のためのワークショップ・グループワークのあり方とファシリテーターの役割 ー地域を単位とする在宅医療推進のためには、さまざまな場面(必ずしも研修会場面に限らない)でグループワーク等の手段を用いることが有効である。多職種による有効なワークショップ・グループワークのあり方とともに、ファシリテーターとなる人材を養成する仕組みについて検討する。 ーアイスブレイクのセッションと同様に、特定地域の多職種に模擬的グループワークを実演してもらい、フィッシュボウル形式で見学する。
	20分*	研修会における実習指導について ー新たに在宅医療に取り組む医師を増やすために、研修会の中で実習を行うインパクトは大きい。地域単位で実習の仕組みを形成するために必要な体制を検討する。 ー実習当日の個別指導のコツを学ぶというよりは、実習運営にかかる事務局のロジスティクスを学び、検討することを主眼とする。
		懇談会
日曜午前(9~12時)	60分*	研修会開催にこぎつけるまでの地ならし・関係づくりについて ー研修会の開催を目指すにあたり、地域の各団体等との関係づくりが極めて重要となる。協力が得られやすいはたらきかけのしかたや、協力が得られにくい場合の対処、解決の難しい課題について検討する。
	120分	理想的な研修プログラムの提案・総括 ー以上を踏まえ、各地域において具体的な研修会構成案を作成するなど、地域特性に応じた在宅医療研修会のあり方を検討・発表する(企画コンペのようなイメージ)。 ープログラム案を作成・発表後、他地域からの意見をもらう。 ー地域の人材・予算等を鑑みながら、柏のプログラムをベースとしどのように改変するかを検討する。 ー自地域にこのような研修は必要ないという場合は忌憚なく述べてほしい。
		閉会

※冒頭5分でその後の作業内容を説明。「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会」などの既存例を参考にしつつ、各地域において実現可能性/有効性が高いと思われるあり方を、地域ごとに25分程度で議論する。それに続き20分程度で発表時間を設け、残り10分でさらに地域ごとの企画を詰める。

II 人材育成

- ・ 各地域における研修等の進捗管理(厚生労働省委託)

24年度に実施したリーダー研修による指導者等が、地域の在宅医療・介護を担う多職種に対して実施する研修の状況の把握、技術的支援を実施

平成25年度

全国各地で研修会開催

研修会428回/44都道府県(新潟県・島根県・大分県より報告なし)

約30,000人が受講

※平成26年1月末時点

- ・ 多職種協働による研修プログラムの開発・モデル地域研修の実施

1) 「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会の研修運営ガイド」の公表

(平成25年12月 国立長寿医療研究センター、東京大学高齢社会総合研究機構、日本医師会、厚生労働省)

2) 「在宅医療多職種研修会のモデル地域養成検討会」の実施

平成26年2月8日・9日 於 TKP大手町カンファレンスセンター

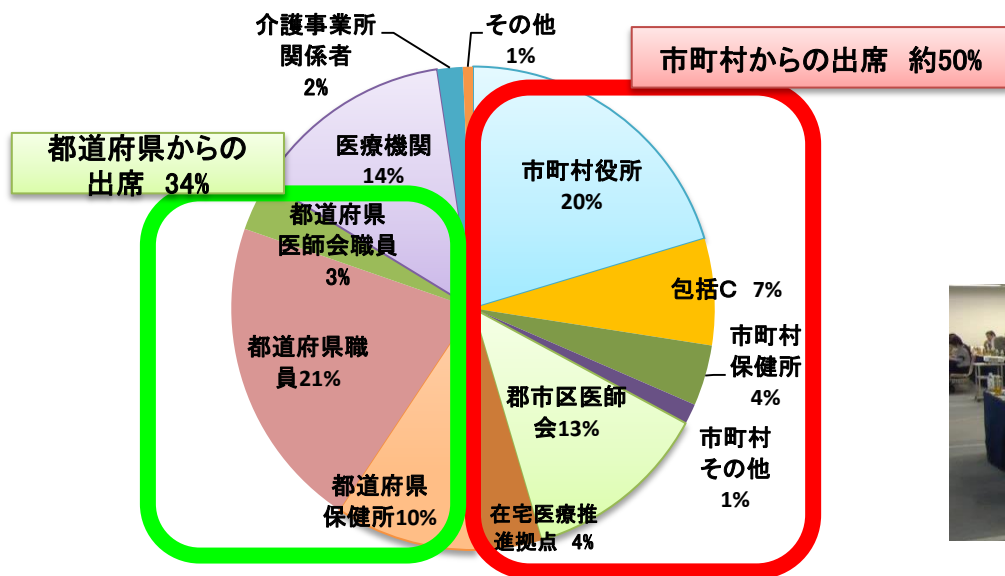
10地域から市町村、医師会役員、医療機関、都道府県(保健所、本庁)等約70名出席

Ⅲ 市町村への働きかけ

- 在宅医療・介護連携推進事業研修会の実施

平成25年10月22日 於:港区

市町村職員、市区町村医師会役員等 334名



アンケート (回収 300枚 回収率89.2%)

結果 ○わかりやすさ...87%がわかりやすいと回答

○満足度...85%が満足と回答

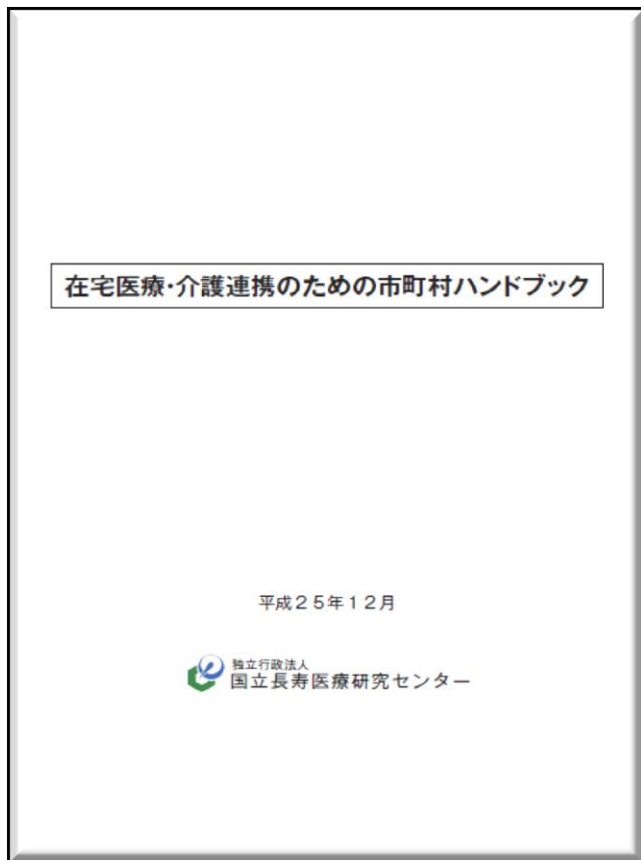
○理解度...93%が多職種協働を理解したと回答

○今後の活用度...94%が地域での活用可能性があると回答

Ⅲ 市町村への働きかけ

・「在宅医療・介護連携のための市町村ハンドブック」発行（平成25年12月）

市町村が主体となって、地域の医師会等と連携しつつ在宅医療と介護の連携を進めていくための具体的な手法について、平成23年、24年度在宅医療連携拠点事業より得られた知見をもとに、日本医師会等の有識者から助言を得つつ、厚生労働省と協議の上、「在宅医療・介護連携のためのハンドブック」を作成。全都道府県・市町村・市区町村医師会に配布したほか、各種研修で活用



目 次	
1 在宅医療・介護連携の必要性について	1
(1) 地域包括ケアシステムの構築がますます重要に.....	1
(2) 在宅医療は地域包括ケアシステムの不可欠の要素.....	1
(3) まずは、自らの市町村で課題の確認を.....	2
2 在宅医療・介護連携の進め方	3
(1) はじめに - それぞれの市町村の状況に応じた施策の展開を.....	3
(2) 市町村での事業の取組みのフローチャート.....	4
(3) 市町村における担当課の決定.....	6
(4) 郡市区医師会との協働.....	9
(5) 地域包括支援センターの位置づけ.....	10
3 具体的取組み	11
A. 会議の開催（会議への医療関係者の参加の仲介を含む）.....	12
B. 地域の医療・福祉資源の把握及び活用.....	17
C. 研修の実施.....	20
D. 24時間365日の在宅医療・介護提供体制の構築.....	24
E. 地域包括支援センター・ケアマネジャーを対象にした支援の実施.....	29
F. 効率的な情報共有のための取組み （地域連携バスの作成の取組み、 地域の在宅医療・介護関係者の連絡様式や方法の統一など）.....	31
G. 地域住民への普及・啓発.....	33
H. 年間事業計画.....	35
4 今後に向けて	39
(1) 市町村事業のさらなる向上のために.....	39
(2) 制度改正の動向.....	41
資料1) 各市町村の取組みに関する図表等の出典一覧.....	42
資料2) 地域包括ケアシステム構築への取組みにおいて参考にされたい情報紹介.....	45

IV シンポジウムの開催

- 第9回「在宅医療推進フォーラム」～新しい地域社会の創造に向けて～

日時 2013年11月23日(土・祝)

場所 東京商工会議所 東商ホール

参加 約600名

主催 独立行政法人 国立長寿医療研究センター、
公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

※ 本会議参加団体をはじめ、多くの団体に共催・後援としてご協力いただきました。

第10回の本年は、11月23日に名古屋市で開催する予定



◎ 地元(愛知県等)での事業

- 愛知県在宅医療従事者能力向上研修事業

愛知県内の在宅医療・介護に関わる多職種を対象に、地域での多職種連携促進とともに、よりよい支援の提供につながるための研修

- 愛知県在宅医療連携拠点事業の事務局

当センターの保有するノウハウを活かし、事業実施にあたり発生する諸課題に対する方策を指導助言するとともに、各在宅医療連携拠点事業推進事業補助事業者に対し関係機関との連携のための助言や支援を行います。また、愛知県在宅医療連携拠点事業推進事業補助事業者間のインターアクションを高めるための顔の見える意見交換会などの場を設けるなどの、より広域の面的展開に繋がる活動となるよう支援